

江戸

農文協の全集

その庶民生活をたずね、未来の糧とする

農書といえば最古（江戸初期）といわれる『清良記』、宮崎安貞『農業全書』、大蔵永常『広益国産考』などが著名な古典とされる。むろん「日本農書全集」全72巻にはそれらも収められているが、この全集（朝日新聞社「明日への環境賞」受賞）では約300に及ぶ文書が15の部門に分けられて整然と並んでいる。そして最大の特長は現代語訳と原文とが対照的に上下二段組みされていることである。江戸時代の農村を訪ね、農民と話すことのできる希有な全集である。以下に15部門を略記し、明日への糧となる文書を紹介する。

「安藤昌益全集」全23冊・増補篇3巻は、「毎日出版文化賞」で「出版界の金字塔」とされた影印・書下し文・現代語訳がセットされた唯一の昌益全集である。増補篇はとくに医学に係わる資料を集め、さらに全集を全文テキスト化し立体的検索ができるCD-ROM 3枚を収めた。

「江戸時代 人づくり風土記」は江戸時代を歴史の過程としてでなく、三百年近く続いた平和の時代の庶民生活を現在の都道府県別に描いた、壮大な郷土物語の集大成である。

1 地域農書（第1～41巻）

全都道府県に存在し、今耕作法を子孫に伝える主目も新発見されている地域密着的の内に、往時の暮らしの着の農書群。その地の田畑 全容が浮かび上がる。

耕作術 第1巻

成立地・青森 成立年・1776（安永5）年
中村喜時著 4900円

稲作の手引きと暮らしの考え方が一体となった江戸時代農家の心性をこよなく伝える地域農書の白眉。本書に始まる収録農書約300点の詳細は別巻「収録農書一覧／分類索引」に掲載。



2 農事日誌（第42～44巻）

農事日誌は日ごとの農「生活百科」の如く読める。耕、四季の移り変わり、村 一方で、記録者の農耕観、づきあい、家族の動静を記 処世観、生命観も伺えて興して、あたかも近世庶民の趣尽きない。

3 特産（第45～49巻）

工農業事見聞録 第48・49巻

成立地・石川 成立年・1818～43（文政）天保年間
村松標左衛門著 揃12900円

金沢藩・村松標左衛門が たる特産を図入りで記す大関西・関東を踏査した全国 著。特産百科。衣食住全般にわ

4 農産加工（第50～52巻）

製油・砂糖・葛、塩・味噌から自家用までの加工手増・醤油、あるいは漬物 引書の集成。
・豆腐・麴・酒などの、商

童蒙酒造記 第51巻

成立地・兵庫 成立年・1687（貞享4）年
著者不詳 5000円

酒造法は多分に秘伝とさ など各種の配の製法を詳述した中で、生・発酵・糖化 した希有な文書。

5 園芸（第54～55巻）

江戸染井の植木職人の手になる園芸百科「花壇地錦抄」、切り花と鉢物の「剪花翁伝」、今に続く肥後菊



仕立ての秘伝「養菊指南車」他、園芸愛好家必携の名著群。江戸園芸人の技法の確かさ細さが横溢する。

6 林業（第56～57巻）

森林業を地域経済活性化「林政八書」（沖繩）などの柱とした「山林雑記」や 山林撫育に係わる書も多森林の保護育成の実際を「風水」の思想で説明した

7 漁業（第58～59巻）

多摩川に鮎が溢れていた 偲ばれる。「釣客伝」では時代。江戸城御用達を背景 釣師が江戸湾での釣技を披とした地域漁業が生まれ 露する。冬の諏訪湖のわきた。「玉川鮎御用中日記」 ささ漁の記録は類書なし。は江戸城への運搬の労苦も

8 畜産・獣医（第60巻）

解馬新書 第60巻

成立地・東京 成立年・1852（嘉永5）年
菊地東水著 7000円

本書は書名通り馬の解剖 牛への応用書、愛玩動物飼学。詳細極める解剖図が江 育法も収録。戸時代にあった。鍼灸の役

9 農法普及（第61～62巻）

農業往来 第62巻

成立地・大分 成立年・1762（宝暦12）年
江藤弥七著 7000円

全国各地で発見される往来物は寺子屋で使われた初級教科書といえる。農家の子弟は何を学んだか？ 老農（先進農家）の農法普及のためのパンフレット類も多々収録した。

10 農村振興（第63巻）

二宮尊徳仕法の真髓を伝 割控（暦日に割当てた農える「暮方取直日掛縄素手 作業年間予定書さ）、村の段帳、大原幽学の「仕事 議定書類も収録。

11 開発と保全（第64～65巻）

江戸時代に展開された河 川土木・石塔工法の技術書。と維持管理、さらに焼畑の今に残る水道橋「通潤橋」の設計書も収録（第65巻）。技法も（第65巻）。

12 災害と復興（第66～67巻）

全国各地の噴火・地震・津波（第66巻）、水害・冷害・虫害の発生・被害・救援・復興（第67巻）の記録。

富士山焼出し砂石降り之事 第66巻

成立地・神奈川 成立年・1716～35（享保年間）著者不詳 6500円

噴火による降灰、酒匂川 防工事など被害地側の一連の氾濫、復興費の訴願、堤 の記録。

13 本草・救荒（第68巻）

備荒草木図 第68巻

成立地・岩手 成立年・1833（天保4）年
建部清庵著 6500円

一関藩医の著書が著わし 収録）の庶民版で100余た「民間備荒録」（第19巻）の草木の図入り。

14 学者の農書（第69～70巻）

大蔵永常 農稼肥培論 第69巻

成立年・1832（天保3）年頃

佐藤信淵 培養秘録 第69巻

成立年・1840（天保11）年 6500円

地域資源を利用し尽くす 学の知識を取り入れ、信淵自然農法を大成した二大 は鉱物性肥料を重視した。農学者の肥料論。永常は蘭

15 絵農書（第71～72巻）

絵巻・屏風・浮世絵・絵 しの世界。『老農夜話（第馬・彫刻・焼物・衣服など、72巻）は種子準備から食卓多様な素材に繰り広げられ までの20場面の絵巻。る江戸期農村の労働と暮らし

明治農書全集 全13巻

（編集）古島敏雄、川田信一郎、熊沢喜久雄、須々田黎吉 A5判、上製、箱入●揃価70000円

江戸から明治へ、農法 は断絶しているわけでは ない。泰西農学の導入が計られる中、また大農論、小農論の行き交う中で、老農と呼ばれる先進農家の残した農書は多く、両者の混合の姿を見ることができ。米麦、特用作物、野菜、果樹、畜産、養蚕、土壌肥料、農具、耕地整理、病害虫、林業などに分けて学者、民間



農文協

未来に活かす伝統の力

別巻 収録農書一覽 分類索引



三百余の農書を現代に活かすガイド
国土保全、自然農法、地域教育など「現代的課題を解くキーワード」からの農書案内と、成立地、分野別などの農書一覧。農法・農作業、衣食住、年中行事・信仰など26項目25万件の分類索引。
●24000円

- ⑫ 『農業全書』 宮崎安貞・貝原素軒 ●揃105000円
- ⑭ 『広益国産考』 大蔵永常 ●52000円
- ⑯ 『百姓伝記』 著者不詳 ●揃87000円
- ⑰ 『会津農書』 佐瀬与次右衛門 ●55000円



日本農書全集

地域資源を活用した 持続的・循環型社会の原像

農業生産を中心とした江戸期庶民の生活世界全般を記した農書。24年もの歳月にわたり全国から300余点を翻刻、現代語訳。「環境を汚さない当時の農法を紹介して、現代の暮らしに大きな示唆を与え」た、として、朝日新聞社・第3回「明日への環境賞」受賞。

安藤昌益全集

全21巻・22分冊・別巻1 安藤昌益研究会編、A5判、上製、箱入り
●増補篇 全3巻、A5判、上製、箱入、各巻CD-ROM付
●各15000円、増補45000円



「学」という字の成り立ちから学問の階級性をあばき出す。〔私制字書巻〕

昌益の現存する全著作と関連資料を復刻編と現代語訳編で集大成した、毎日出版文化賞受賞、物集索引賞受賞作品。増補篇に検索容易なCD-ROM3枚を同函。
第一〜七巻 稿本自然真営道へ書下し文と現代語訳を二段組で掲載
第八〜二巻 統道真伝(同右)
第三巻 刊本自然真営道(同右)
第一四〜一六巻(上下) 資料編(二井田資料、八戸同函)。

江戸時代 人づくり風土記

全50巻 都道府県別編集、B5判、上製、平均380頁
●各3500円〜10000円、増補225000円



若者と子供が担う鳥取県伯耆三ノ宮倭文神社の祭礼。祭は重要な社会教育の場でもある。

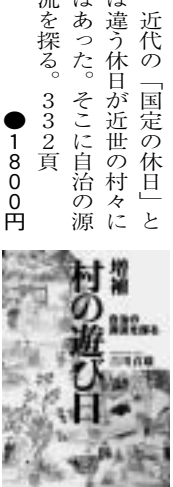
都道府県別に一巻を当て、様々な角度から光を当て、江戸時代の庶民生活に歴史書としてでなく、江戸時代の暮らしの雰囲気がかかるものという編集方針で、各巻おおむね次の五章で構成した類をみない全集。各巻は七、八編の読み切り物語となっている。
第1章 自治と助け合いの中で
人物を中心に新田や水利の開発、特産品の振興、生産と生活の共同組織(ゆい)、災害復興などの多彩な事例を紹介。
第2章 生業の継承と振興の中で
農耕・山仕事・漁撈の姿、こけし・細工物・彫刻などの工芸品、その他あらゆる生業をめぐる伝承を集める。
第3章 地域社会の教育システムの中で
小学生から読める文章とし、郷土の江戸時代を子ども時代から理解して、昔に今に生かすよすがとするねらいが受け入れられて、中学校学校図書館に採用されているが、教育系の大学での授業実習にも活用されている。

昌益の人体・府蔵図(「統道真伝」人倫巻)



増補 村の遊び日

自治の源流を探る
古川貞雄著



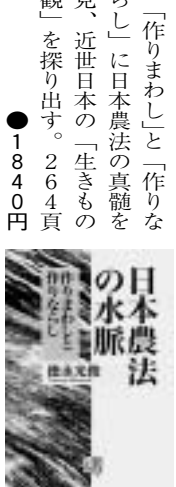
旅芸人のフオークロア

門付芸「春駒」に日本文化の体系を読みとる
川元祥一著



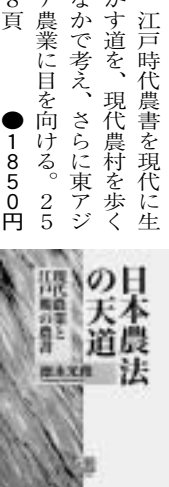
日本農法の水脈

徳永光俊著



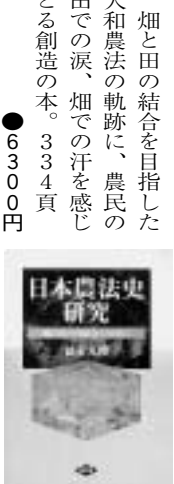
日本農法の天道

現代農業と江戸期の農書
徳永光俊著



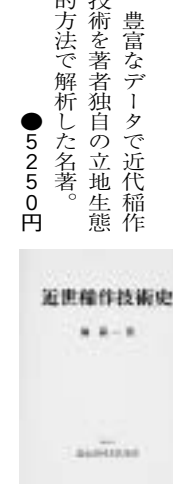
日本農法史研究

煙と田の再結合のために
徳永光俊著



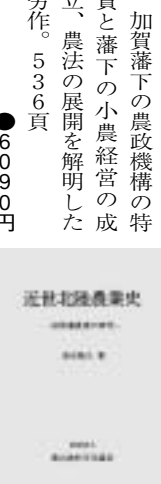
近世稲作技術史

嵐嘉一著



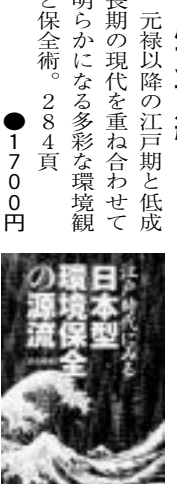
近世北陸農業史

加賀藩農書の研究
清水隆久著



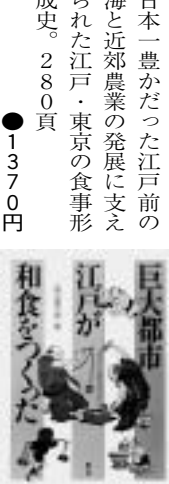
江戸時代にみる日本型環境保全の源流

農文協編



巨大都市江戸が和食をつくった

渡辺善次郎著



江戸時代 人づくり風土記

全50巻・各都道府県別編集



地方が中央から独立し、侵略や自然破壊なく地域社会を充実させ、来るべき循環型社会、成熟社会のモデルとして世界的に注目される江戸時代。その魅力を、各都道府県ごと、行政、自治、産業、教育、学芸、福祉、民俗など多彩な分野、約50編の物語で描く。●全50巻・都道府県別編集、B5判、上製、平均380頁、各巻に物産一覧、カラー口絵つき

- 〈江戸〉に学び未来を拓く五つの視点
各都道府県版の章立て
- | | | | | |
|-------------|--------------|-----------------|--------------|-------------------|
| 第1章 自治と助け合い | 第2章 生業の振興と継承 | 第3章 地域社会の教育システム | 第4章 子育てと家庭経営 | 第5章 地域おこしに尽くした先駆者 |
|-------------|--------------|-----------------|--------------|-------------------|

個性的で活力溢れる
各地の生活文化と産業づくり



【特別編集版】
東京編「大江戸万華鏡」
CD「大江戸四季の音巡り」付
外国人も驚いた世界最大のエロ
ジリ都市。政治、経済から教育、
風俗まで。●1000000円
沖縄編
CD「沖縄を聴こう(沖縄民謡)」
付 東アジアをつなぐ海の架け
橋。日本の源流ともなる独自の文
化。●700000円
大阪編「大阪の歴史力」
「天下の台所」の活力がリードし
た自給列島・日本の産業革命。●
1000000円

農文協

近世日本の地域づくり
2000のテーマ
索引巻
開発、物産、祭り、教育
など多彩なテーマで本全
集の記事をガイド
●50000円

農文協の全集

農が国の総体を支えるという矜持

明治維新はほとんど無血だったとはいえ、資本制・中央集権へと国家構造を変える革命であった。国軍の創設によって国家権力は強化され、一方、文化は西欧にひたすらなびいた。

とはいうものの、欧化の中にあっても明治・大正期の日本農学・農政学は単に農業にとどまらずに、つねに国全体の産業構造と精神構造の総体を論じていた。現在のように食料・農業・農村の各問題に分解されてはいなかったのである。

それらの古典的名著は「明治大正農政経済名著集」全24巻、「昭和前期農政経済名著集」全22巻によって容易に入手することができるし、学問の総合化が望まれる現今、とくに若き学徒にとって必読の文献である。

農業系の全集は「昭和後期農業問題論集」「食糧・農業問題全集」「全集 世界の食料 世界の農村」と続き、個人全集に「近藤康男著作集」「小倉武一著作集」がある。

明治大正農政経済名著集

（全24巻 A5判、上製、箱入り）

興業意見・所見他 第1巻

前田正名 明治17（1884）年、34歳

松方デフレによる農業・農村・農民の疲弊を正すべく官の側から出された地域振興計画。全国規模で在来産業の実態を調べ、その有

日本地産論 第2巻

M・フェスカ 明治23（1900）年

農商務省地質調査所に招かれ、駒場農学校で教鞭をとったドイツ人農学者による日本農業論。北海道から鹿児島まで全国の土性調査

時代ト農政・他 第5巻

柳田国男 明治43（1911）年、37歳

日露戦（明治37年）後の恐慌で農村はまたまた疲弊。サーベル農政が闊歩する農村に「真正の村是は当局者自身の手で」と訴えた。輸入観念農学と小農主義農

日本尊農論・日本農政学 第6巻

河上肇 明治37、38（1905、6）年、25、26歳

日露戦の勝利で勢いを得た自由主義経済論に立つ工商立国・賤農論に対し、それは後発国の追い上げによつてその独占的地位は崩れるので甚だ危険と警鐘、農工商鼎立の理論化に挑んだ。中国、韓国などに追いつ

農業本論 第7巻

新渡戸稻造 明治31（1899）年、36歳

日本人の手によって初めて包括的に論じられた農業論の原典。その視野は広く医療健康、教育、循環型社会、人口問題にまで及び、その中に農業・農村を位置づけその貴重なる所以を説

適産調要録・他 第14巻

石川理紀之助 大正6（1917）年

官の前田に対し民の側から地域づくりを説いたのが石川のこの書。地域の実態調査、営農・販売、地域づ

農村問題と社会理想 第21巻

那須皓 大正13（1924）年

深刻の度を増しつつあった小作争議を前に「農村問題とは文明問題なり」という高い見地から土地所有、農

農村自治の研究 第22巻

山崎延吉 明治41（1909）年、35歳

新渡戸『農業本論』と並べ称され、15版を数えた名著。国家的統治の客体とし

昭和前期農政経済名著集

（全22巻 A5判、上製、箱入り）

農村問題入門 第1巻

猪俣津南雄 昭和12（1937）年、39歳

恐慌下の日本農業の困難を日本資本主義の後進性と

農業経済論 第2巻

近藤康男 昭和7（1932）年、23歳

わが国においてマルクス経済学の立場から書かれた最初の「農業経済学」の書。

農業経済論	近藤康男著
東京	後野書店

日本農業の展開過程 第3巻

東畑精一 昭和11（1936）年、37歳

右記近藤の著作と共に学としての農業経済学の確立

をなした名著である。国民経済との関連で農業を純粹経済学的に分析し、日本農業を「動かすもの」を明らかにした。「農民、地主」

日本農業の基礎構造 第7巻

栗原百寿 昭和18（1943）年、32歳

日本農業の特殊性の検出のみを志向することの理論的不毛性を衝き、地主制の桎梏のもとでもそれを押し

農業金融論 第14巻

小平権一 昭和5（1930）年、46歳

産業組合系統金融の整備確立を目標に各国の制度を調べ日本の事情と比較検討した研究の集大成。恐慌下

農業経済地理 第18巻

青鹿四郎 昭和10（1936）年、43歳

郷土教育における郷土、とくに農業の地域性認識の方法と将来への見通しを示すために書かれた異色の名著。農業の地域性とは「空

農村社会の研究 第20巻

有賀喜左衛門 昭和13（1938）年、41歳

農村研究の二つの流れ―経済史学と民俗学―は村落生活の基本を等閑視してき

入会権論 第21巻

奈良正路 昭和6（1931）年、32歳

農業生産と農村生活を支える必要不可欠な場だった入会林野が国家、地主によ

記事中に記された年齢は執筆または発行時の年齢

明治大正農政経済名著集

全24巻 農村経済の疲弊が進み寄生地主制が確立する時期に書かれたわが国社会科学の原点。ヒューマニズムを出発点としながら、農業・農村が商工業の隆盛と対極の窮地におかれることの国民経済的弊害を説き、その克服の途を科学的に明らかにしようとした。

〈編集〉近藤康男、阪本楠彦、村上保男、梶井功、A5判、上製、箱入り●揃価91500円



農文協

農を通じて創造されたわが国社会科学の原点

- 1 興業意見・他 前田正名 ●3500円
- 2 日本地産論・他 フェスカ ●4000円
- 3 日本振農策・他 エッゲルト他 ●3000円
- 4 信用組合論・他 平田東助他 ●3500円
- 5 時代ト農政・他 柳田国男 ●3500円
- 6 日本尊農論・他 河上肇 ●5000円
- 7 農業本論 新渡戸稻造 ●4500円
- 8 農業経営学 伊藤清三 ●3500円
- 9 実地経済農業指針・他 斎藤萬吉 ●5000円
- 10 土地経済論 河田嗣郎 ●4500円
- 11 産業組合講話 佐藤寛次 ●3500円
- 12 農村革命論・他 横田英夫 ●3500円
- 13 小農保護問題 社会政策学会編 ●3000円
- 14 適産調要録・他 石川理紀之助 ●3000円
- 15 永小作論 小野武夫 ●3500円
- 16 農村法律問題 末弘蔵太郎 ●3000円
- 17 第壹農業時論農村行脚三十年 横井時敬 ●4000円
- 18 農民組合の理論と実際他 杉山元治郎・若林三郎 ●3500円
- 19 明治大正農村経済の変遷 高橋亀吉 ●3500円
- 20 世界農業史論 佐藤昌介、稲田昌植 ●3500円
- 21 農村問題と社会理想他 那須皓 ●3500円
- 22 農村自治の研究 山崎延吉 ●5000円
- 23 米と社会政策・養蚕労働経済論 ラビット他 ●4500円
- 24 明治農業論集 明治期に華々しく展開された地租・土地所有をめぐる論争・谷干城、幸徳秋水、赤羽など ●4500円

食糧・農業問題全集

全20巻・22分冊(編集委員)今村奈良臣、犬塚昭治、河相一成、七戸長生、陣内義人、永田恵十郎、松浦利明、吉田忠、A5判、上製、平均300頁
●各3200円、揃価70400円

プラザ合意の翌86年から、的グローバリズム批判、市刊行されたこの全集は、急場原理至上主義批判の先鞭激な円高による内外価格差をつけた。さらに『農業の拡大、土地の高騰等を理的利用』など、およそ農政業・農協バッシングに対し経済学には似つかわしくない数々のすぐれた理論的著作によりその誤りをただし、こんにちに連なる覇権主義

4 地域農業の組織革新

高橋正郎

十年一日の如く唱えられを批判し、「近隣協調・地域の規模拡大(両極分解論) 間競争」の原理に立つ地域による農業再建のとりえ方 農業システムの創造がカギ

全集世界の食料世界の農村

全27巻(企画委員)今村奈良臣、犬塚昭治、七戸長生、永田恵十郎、中安定子、原田津吉田忠 A5判、上製、平均270頁
●各3200円、揃価86400円

日に日に国境が低くなつていく現代は、資源、技術、「世界とアジアからの受信文化、制度など、何が非代替的では何は交流、交換が可プロに編まれたこの全集能なのか。棲み分けと相互は、地域主義に基づくグロー浸透の了解が必要だ。それれた地域主義が食と農の世が学び合い、互いを尊重し、界で可能であることを示し足らざるは補い合つて自分ている。

2 東アジア農業の展開論理

今村・金・劉・羅・坪井

稠密な人口を支えた東アジア農業の、欧米のそれとを比較検討し、アジアの特性を浮き彫りにする。

5 農業の継承と参入

酒井・柳村・伊藤・斎藤

農業情勢・農政の変貌、若者の職業意識の変化から

と強調。集落営農を進める 上でも有益な示唆に富む。

5 人間と自然の生産力

陣内義人

農業ないしその生産力を、間を幾久しく継承していく分析する視座を国民経済のための高適な見地からの新ら国民生活に移して考察すればどうなるか。自然と人

7 明日の農協

武内哲夫・太田原高昭

協同組合理念をいかに事業に投影させ経営体としても成り立たせていくか。制度としての農協」という概念を軸に過去を総括、明日を展望。系統の学習図書文献にも指定された。

8 農業の教育力

七戸長生・永田恵十郎・陣内義人

農のもつ人格形成・教育的に解明した先駆的意欲力について人類史的スケールで哲学的・原理的・実践源である農にまで遡って考

11 開発援助の光と影

嘉田・諸岡・竹谷・福井

食料・人口・環境問題の解決に直結する日本の農業ODAの実態、改善点をインドネシア・マレーシア・フィリピン・スーダンを舞台に検証する。



15 二十世紀社会主義農業の教訓

谷口信和

社会主義農業が崩壊せざるを得なかった要因を旧東と、法人化、集団化しつつ独を中心に解明。構造的なある日本農業が学ぶべき教質、経済システムなどを西訓を導き出す。

17 バイオテクノロジーの農業哲学

西尾・中島・大澤・宮田

バイオテックはもはや研究機や実用の最前線と、農家で関や大企業の独占技術ではの活用に必要な人材育成ない。農家が営々と築いてきた育種や微生物利用の延長線上にあるものだ。研究

えるのに最適のテキスト。

11 B 工業化社会の農地問題

宇佐美繁・石井啓雄・河合一成

都市近郊、兼業農業地帯、族農業とむらが培ってきた過疎山村、多様な様相を呈する農地問題は日本の工業問題解決の方向を土地問題化社会の所産であり欧米と全体の中に位置づけながら異なる日本の特徴だ。家展望。

12 農産物の価格と政策

犬塚昭治

農産物の価格と生産の價格変動の関連を追究した本係は工業とは違う特殊農業書は、直接支払いへの移行のな考察が必要とされる。期の今日、なお踏まえるべき論点を多岐にわたって呈示している。

17 食生活変貌のベクトル

吉田忠・秋谷重男

明治期以降の米食型食生活の形成と変質の要因を洗連統と断絶の一世紀を鳥瞰い、流通、外食産業、中食し、「変貌」の基本ベクトルを探索。

23 欧米諸国の栄養政策

並木正吉

世界の栄養政策を体系的・総合的に紹介・分析した初めての本。ノルウェー・スエーデンなど欧米18か国・地域の経験と成果を歴史的に検討し、日本の食政策に示唆を与える。



24 アジア漁業の発展と日本

廣吉・加瀬・馬場・張・増井ほか

世界的な資源保護管理の潮流とアジアの台頭を受け、日本漁業は変貌を迫られつつある。生産の現場とど巻末データも充実。

26 森林資源の利用と再生

永田信・井上真・岡裕泰

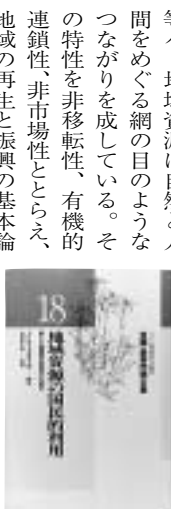
単純な森林破壊論に線を描き、経済発展と資源変動の相関を長期スパンでとらえ、日本中山間地帯林業再生の道を探る。森林消失著しいフィリピン、インドネシア、タイについては経済発展と回復の可能性を詳述。



18 地域資源の国民的利用

永田恵十郎

土地、森林、河川、生物、理を示す。具体的事例も豊富で示唆に富む。



昭和農業技術発達史

農林水産省農林水産技術会議事務局編、農林水産技術情報協会刊

A5判●揃価68000円



昭和農業技術史への証言

西尾敏彦編

稲作、畑作、バイオなど携わった人びとの苦闘の足各分野の技術開発に実際に跡。

近代日本農業技術年表

(明治元年～平成10年)

(社)農林水産技術情報協会監修 A4判、534頁●15000円

農業の全分野(作物・野の総合年表。人名・事項の菜・果樹・花き・畜産・養詳細な索引により、「技術」蚕・工芸作物・遺伝資源の総体がたどころに検索食品等」と社会の関連事項とを対比させて記載した初

百年をみつめ21世紀を考える

農業科学技術物語

川嶋良一監修、農業試験研究一世紀記念企画 四六判、216頁●1980円

農業の発展・飛躍をもた肥料、病気・害虫防除、ならした科学技術とその成果イテク、農業機械の将来課を物語でまとめる。稲品種、題への対応がわかる。畑作、果樹、畜産、養蚕、

昭和前期 農政経済名著集

全22巻 恐慌に始まり敗戦で終わった暗い時期。しかし一方で、激しい思想弾圧にも屈せず、わが国社会科学が一步も二歩も前進した光輝ある時代でもあった。数々の名著を生み出し、戦後の民主化を学問的に準備した思想的・理論的格闘の中心軸は、農業問題であった。〈編集〉近藤康男、阪本楠彦、村上保男、梶井功 A5判、上製、箱入●揃価113000円



農文協

日本の破局と再生への芽を 正確に見定める

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 農村問題入門・他
猪俣津南雄 ●5500円 | 12 米穀流通費用の研究
木村和三郎 ●4000円 |
| 2 農業経済論
近藤康男 ●4300円 | 13 日本産業組合論
井上晴丸 ●3600円 |
| 3 日本農業の展開過程
東畑精一 ●4500円 | 14 農業金融論
小平権一 ●8000円 |
| 4 農業問題と土地変革
平野義太郎 ●5800円 | 15 農家負債と其整理
河田嗣郎・裕正夫 ●5000円 |
| 5 日本農業論
戸田慎太郎 ●4000円 | 16 農業生産費論考・他
大槻正男 ●3800円 |
| 6 米と繭の経済構造・他
山田勝次郎他 ●4400円 | 17 日本農業の機械化
吉岡金市 ●3700円 |
| 7 日本農業の基礎構造
栗原百寿 ●5500円 | 18 農業経済地理
青鹿四郎 ●5400円 |
| 8 農業土地政策論
沢村康 ●6000円 | 19 畜産経済地理
宮坂梧朗 ●5200円 |
| 9 日本農村人口論
渡辺信一 ●5800円 | 20 農村社会の研究
有賀喜左衛門 ●6600円 |
| 10 農民離村の実証的研究
野尻重雄 ●6800円 | 21 入会権論
奈良正路 ●4200円 |
| 11 農業生産の基本問題・他
川俣浩太郎他 ●5700円 | 22 農民闘争の戦術、その躍進他
西俊夫他 ●5200円 |

中国

農文協の全集

日中交流の軌跡をたどり未来を拓く

中国に関する農文協の専門書には、二つの分野があり、一つは農業で現代農業と伝統農業を扱うもの、もう一つは文化・思想・運動の分野とその日中交流史である。どちらも現代日本があまり注目していないマイナーな分野に、これだけの専門

書を刊行する出版事業は少ないのではないかな。

全集としては目下刊行中の「図説 中国文化百華」第1期・全20巻があり、多彩なテーマを図の多用で扱う。

思想・日中交流史

中国史のなかの日本像

王勇著

B6判、284頁●1950円



古代は蓬萊の島という理想郷、中世は海賊・妖怪の島、近代は「西学」の師から侵略者「鬼子」への暗転へ。さまざまな変遷を経た中国人の日本像の変遷をたどるなかで中日文化交流の真髓を探究する。

江戸・明治期の日中文化交流

浙江大学日本文化研究所編

A5判、264頁●4200円



浙江大学日本文化研究所が主催した「清朝における中日文化交流国際シンポジウム」の記録。江戸期長崎での文化交流の隆盛と清末の留学生派遣や駐日公使館の文化活動が詳論される。

奈良・平安期の日中文化交流

王勇・久保木秀夫編

A5判、436頁●4800円

漢籍・経典の移入による日本の思想・宗教・文化のクロードに比したブックロ形成過程を多様な分野・視点から解析し、さらには東

安藤昌益 日本・中国共同研究

農文協編

A5判、344頁●6116円



1992年9月、中国の昌益シンポジウムの記録。日中の研究者40名が報告。日本からは鈴木正、安永寿延、寺尾五郎、いいたも、石渡博明、ほかが参加。鈴木氏による、各報告を繋げる詳細な解説が付された記念碑的出版。

日本神道の現代的意義

王守華著、本間史訳

B6判、224頁●1890円

「日本近代化成功の影に神道の存在がある」と神道

研究に心血を注いだ中国思想としての神道を発見し、国気鋭の日本思想研究者が、「自然（神々）との共地（日本）踏査によって解生」をめざすエコロジー思想する。

日本の近代化と儒学

王家驊著

B6判、400頁●2400円

江戸期に独自の展開を遂げた日本儒学は、西洋文明の思想家から明治の啓蒙家・民権家・社会主義者に導入の基礎となり、近代化の礎となった。多彩な江戸

日本近代思想のアジア的意義

卜崇道著

B6判、328頁●2100円

江戸期における近代思想の萌芽から明治の啓蒙思想、自由民権運動、ナショナリズムの台頭と東西思想

東洋的環境思想の現代的意義

農文協編

B6判、366頁●2100円

自然の収奪・改造によって発展してきた西洋文明に比して、自然の涵養・維持によって持続してきた東洋

戦後日本哲学思想概論

卜崇道著、本間史訳

A5判、570頁●9200円



マルクス主義、実存主義、プラグマティズムをはじめ、科学哲学、倫理学、美学、宗教哲学、ニューアカデミズム、日本文化論学派などの思潮動向を徹底分析した中国に於ける戦後日本思想史研究。

東洋思想の現代的意義

黄心川著、本間史訳

四六判、408頁●3200円

人類社会の発展は、西洋の科学的・精神的・人間的の調和を基調とする東洋思想の結合によって達成され

東西文化とその哲学

梁漱溟著、長谷部茂訳

A5判、452頁●5000円



著者は中国革命期を生きた哲学者・運動家。毛沢東とは延安での協力から建国後の対立の関係を経て、文革後名誉回復。1921年発行の本書は、西欧で反響を呼び「中国最後の儒者」とされた。

郷村建設理論

梁漱溟著、池田篤紀・長谷部茂訳

A5判、470頁●5000円

農村秩序の再建を通じた運動の書。農村や農民て、個人本位・階級対立の中心のアジア的な近代化建設を主張した21世紀世界建設のための指針。

晏陽初とその平民教育と郷村建設運動

宋恩榮著、鎌田文彦訳

A5判、332頁●6000円

晏陽初は、近現代中国の教育者・思想家で、アインシュタインとともに「現代の革命的貢献を成した10人の世界偉人」の一人に数

中国盆景の世界

全3冊 菊判 各160頁●各2500円

1盆景 日本盆栽の源流を1写真で紹介。なす中国盆景の歴史と理論を豊富な絵図とカラー写真を集大成。現代中国の「樹木盆景」と「山水盆景」の流派・技法も紹介。88の伝世の盆景の自然美・芸術美に中国人の美的境地（意境）を観る。

2花盆 樹石・花盆（盆景）の盆景美。盆景とともに発達した花盆の歴史と文化を集大成。皇帝に供された伝世の官窯花盆と陶都「宜興」の紫砂花盆の新たな魅力を、名品160余点のカラーで収録。



全集 世界の食料 世界の農村

全27巻（企画委員）今村奈良臣、犬塚昭治、七戸長生、永田恵十郎、中安定子、原田津、吉田忠 A5判、上製●各3200円、揃価86400円／21世紀を動かす世界の根本問題―農・食・環境を27のテーマで論じた書下ろし全集。貿易、資源、食の安全安心、担い手、中山間地振興：国内外の諸問題を根本的にとらえる。



- ① 海外農村視察必携
- ② 東アジア農業の展開論
- ③ 世界の農民群像
- ④ 土地を活かす未知と政策
- ⑤ 農業の継承と参入
- ⑥ 先進国 家族経営の発展戦略
- ⑦ フランス山間地農業の新展開
- ⑧ 世界の農業支援システム
- ⑨ 地域資源の保全と創造
- ⑩ 水資源の枯渇と配分
- ⑪ 開発援助の光と影
- ⑫ 農協改革の新視点
- ⑬ 消費者運動のめざす食と農
- ⑭ E.C.の農政改革に学ぶ
- ⑮ 二十世紀社会主義農業の教訓
- ⑯ 世界各國の環境保全型農業
- ⑰ バイオテクノロジーの農業哲学
- ⑱ 世界は飢えるか
- ⑲ 食料輸入大國への警鐘
- ⑳ 変貌する農産物流通システム
- ㉑ WTO体制化の食料農業戦略
- ㉒ 食生活の表層と底流
- ㉓ 欧米諸國の栄養政策
- ㉔ アジア漁業の発展と日本
- ㉕ 森林資源の利用と再生
- ㉖ 世界の食料安全基準
- ㉗ 論争 近未来の日本農業

食糧・農業問題全集

日本と世界、都市と農村 共存・共生への指

全20巻・22分冊（編集委員）今村奈良臣、犬塚昭治、河相一成、七戸長生、陣内義人、永田恵十郎、松浦利明、吉田忠、A5判、上製●各3200円、揃価70400円／バブル経済に突き進み、急激な円高による内外価格差の拡大、土地の高騰等を理由に農業パッシングがくり返された時代、論理的にその誤りをただし、覇権のグローバリズム・市場原理至上主義批判の先鞭をつけた全集。



農文協

- ① 農業の活路を世界に見る
- ② 社会主義農業の変貌
- ③ 飢餓と飽食の構造
- ④ 地域農業の組織革新
- ⑤ 人間と自然の生産力
- ⑥ 現代の兼業
- ⑦ 明日の農業
- ⑧ 農業の教育力
- ⑨ 新しい農村リーダー
- ⑩ 政府と農民
- ⑪ A国土利用と農地問題
- ⑫ 農産物の価格と政策
- ⑬ 多様化する農産物市場
- ⑭ A食糧政策と食糧制度
- ⑮ B流通「自由化」と食糧制度
- ⑯ 農業保護の理念と現実
- ⑰ 食糧・農業の関連産業
- ⑱ 地域資源の国民的利用
- ⑲ 新海洋時代の漁業
- ⑳ 農業統計の作成と利用

中国伝統農業

中国農業の伝統と現代

郭文翰・曹隆恭他著、渡部武訳 A5判、570頁 ●8665円

伝統的重農思想・経営思想を概説し、深耕畑作・水旱耕作の技術を詳述し、その現代的意義を説く現代中国農業の白眉。



汜勝之書 中国最古の農書

汜勝之著 岡島秀夫・志田容子訳・解説 A5判、116頁 ●1890円

紀元前一世紀、最古の中国農書。古代乾燥地の農法を知る貴重な文献。原文・日本語訳・英訳・解説。

陳勇農書の研究

大澤正昭著 A5判、304頁 ●7646円

12世紀東アジア稲作の到達点を示す中国・江南の農書。原文・日本語訳と著者永年の研究成果の集大成。

中国古代農業博物誌考

胡道静著、渡部武編訳 A5判、308頁 ●8665円

現代中国農史研究の權威の、農書、農業史、博物誌、人物史研究論文を日本の中国農業史研究の第一人者が編訳。



中国博物学の世界

小林清市著 A5判、444頁 ●6800円

中国最古の植物誌『南方草木状』(西晋末永興元年―西暦三〇四年?)の全訳と影印版。訳者の『齊民要術』に係る論文ほか遺稿を集大成。山田慶児序文。



中国大豆栽培史

郭文翰著、渡部武訳 A5判、290頁 ●6500円

大豆原産地中国の、数千年に及ぶ栽培の歴史を技術・文化史として総括した名著。

現代中国農業

中国食糧需給の分析と予測

中国農業科学院編、今村奈良臣監修、菅沼圭輔訳 A5判、360頁 ●8665円

中国農業経済学会の重鎮、劉志澄氏が責任編集した学会をあげての国家的プロジェクトの成果。



10億人を養う

S・ウィットワ―他著、阪本楠彦訳 A5判、490頁 ●8665円

米国の中国学者が作目別・地域別に詳述した中国農業生産の現状と見通し。

中国農業地理

劉世錫著、近藤康男・藤田泉訳 A5判、352頁 ●3150円

中国農業の地域特性を明らかにし、食糧作物、園芸、畜産、漁業の地域配置を研究した古典的名著。

近藤康男の訪中ノート

近藤康男著 B6判、314頁 ●1050円

新中国のあしおと(近藤康男著作集13)

近藤康男著 A5判、632頁 ●4500円

大躍進、文革、改革開放の各時期の中国農村をつぶさに見た「調査なくして発言権なし」の調査が書き記した生々しい記録は、いまや高度な史的価値を持つ。

中国農業白書

中国農業部著、菅沼圭輔訳 A5判、328頁 ●4893円

激動の79〜95年を総括した中国初めての「農業白書」。

中国農業必携

白石和良著 A5判、572頁 ●7350円

人口、面積などの統計数字と詳細な作目別生産額を省別に表示し、さらにその変動も読め、数字の正しい読み方を明示した画期的なハンドブック。

詳細 中国の農業と農村

河原昌一郎著 A5判、258頁 ●3150円

食糧需給と流通、市場化、農民経営、農村政策、社会保障の歴史・現状・変化の胎動を詳述する概説書。

中国の食品産業

白石和良著 A5判、570頁 ●10000円

中国食品産業市場の動向を知るデータを集成し、著者独自の見解を明示した労作。

杜潤生 中国農村改革論集

濱口義曠他訳 A5判、764頁 ●12000円

新中国の誕生以来の中国 農政担当者。毛沢東の合作

図説 中国文化百華 第一期

全20巻・既刊9巻 日中文化交流の軌跡を多様な角度から書下ろす。A5判、平均208頁 ●各巻3200円

天翔のシンボルたち

幻想動物の文化誌

張競著 異形異能の動物

に古代人が託したメッセ

ージとは?アジアの想像

跡、徐福伝説、大唐米な

力を探訪する初の試み。

おん目の覗めぐはばや

鑑真和尚新伝

王勇著 命がけの渡日に

至る鑑真の生き様を中心

に、当時の社会背景と日

本での事跡の広がりをも

今泉忠明著 高山・砂漠

・密林・凍土などの多様

な地理条件に棲む60種の

生態と運命。人と自然の

相克。

神と人との交響楽



書。訳者による一三〇項目に及ぶ用語説明付き。

中国近郊農村の発展戦略

今村奈良臣・張安明・小田切徳美著 A5判、284頁 ●4800円

農文協創立60周年記念事業・農村振興計画立案。その業として行なわれた中国河

発展戦略

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

都市 鹿泉市における農業

洋出版連合 出版賞受賞。

計画書を日中両国語で出

版。A P P A (アジア太平

昭和後期農業問題論集

全24巻 (責任編集) 近藤康男、A5判、上製、箱入●各3400円、4800円、揃い94600円/農地改革から食糧増産への戦後の息吹と、都市・工業と外国農産物との二重の軌轢の中で生じてくる新たな問題を多角的、重層的に見られるよう編集。収録された論文以外の膨大な関連文献・年表なども、生きた戦後農業誌が肌で感じられる。

- 1 農地改革論Ⅰ 嵯峨崇三編
- 2 農地改革論Ⅱ 嵯峨崇三編
- 3 農民層分析論Ⅰ 梶井功編
- 4 農民層分析論Ⅱ 梶井功編
- 5 農村人口論 労働力論 中安子編
- 6 農業の計量分析論 土屋達編
- 7 土地制度論 今村奈良臣編
- 8 土地価格論 阪本楠彦編
- 9 水利制度論 新井信男編
- 10 食糧管理制度論 近藤康男編
- 11 農産物価格論 犬塚昭治編
- 12 農産物市場論Ⅰ 湯沢誠編
- 13 農産物市場論Ⅱ 湯沢誠編
- 14 国際市場論 玉井虎雄編
- 15 農業経営理論Ⅰ 金沢夏樹編
- 16 農業経営理論Ⅱ 鈴木福松編
- 17 生産力構造論 五味仙術武編
- 18 経営計画・簿記論 武部和夫・新藤雄編
- 19 農業金融論 鈴木博編
- 20 農業協同組合論 斎藤仁編
- 21 村落構造論 安達正恒編
- 22 農民運動論 五味健吉編
- 23 林業経済論 森巖夫編
- 24 漁業経済論 長谷川彰編

近藤康男著作集

全13巻・別巻1 マルクス経済学の立場で独自の追求により農業問題を社会科学にまで高めた近藤博士の著作集。自ら撰しテーマ別、年代順に編成。巻頭に自ら解題の筆をとり時代背景を解き問題意識を語る。

- 1 チウナン孤立国の研究(品切)
- 2 農業経済論
- 3 煙草専売制度と農民経済
- 4 日本農業経済論
- 5 協同組合原論
- 6 農業経済調査論
- 7 農村民主化の課題
- 8 農地改革の諸問題
- 9 農地改革後の農民経済
- 10 農村統計の理念
- 11 日本農業経済論
- 12 高度経済成長と農業問題
- 13 新中国のあしおと
- 別巻 一農政学徒の回想

小倉武一著作集

全14巻 W T O・新食糧法施行の大変革期に戦後農政の当事者として農政を総括。世界の政治と農業と人と環境を論じ、農民の社会的存在に迫った論評と提言は、21世紀の農業の価値実現と農政理念の確立にとって基本文献。A5判、上製、箱入、各4500円

- 1 土地所有の近代化(上)
- 2 土地所有の近代化(中)
- 3 土地所有の近代化(下)
- 4 農政への社会学的接近(上)
- 5 農政への社会学的接近(下)
- 6 基本法農政を超えて
- 7 構造問題の諸相
- 8 食糧管理の彼方
- 9 世界の農村と農政①アジアを語る
- 10 世界の農村と農政②イスラエル・アメリカ
- 11 世界の農村と農政③緑のヨーロッパ
- 12 世界の農村と農政④緑のヨーロッパ
- 13 ひとびと
- 14 行政と研究の間

食

農文協の全集

地域に根ざした食環境が暮らしをつくる

食が生きることの基本だというのは「食べなくては生きられない」ということだけを意味しているのではない。近ごろでは知育・徳育・体育に並んで「食育」という明治期の言葉も復活し、その先ごろ、「基本法」までが制定された。

食のもつ重要な意味は、地域ごとの食環境によって生活（暮らし）全体のスタイルが形づくられていく、という点にある。永らく栄養学（栄養素）によってのみ評価されてきた食事を、人間の営みの基本的要素の一つとしてとらえなおそうというのが農文協の食の分野

の全集群である。

「日本の食生活全集」全50巻は、昭和初期の庶民のハレとケの食卓を聞き書きと再現写真によって記録したもの、また「講座 食の文化」全7巻は1980年代から展開された食文化研究の成果の集大成である。「世界の食文化」は20カ国・地域の食の歴史と現状の、滞在歴豊かな筆者による活写である。もち・すしなど料理のジャンルごとに一冊とした「ふるさと家庭料理」もある。

全50巻 日本の食生活全集

各都道府県編十アイヌの食生活十索引2巻

A5判・上製、平均350頁、カラー口絵付

●各29000円、揃価145000円

「日本の食生活全集」全50巻は1984年に刊行を開始し、93年に索引巻「日本の食生活全集」2冊を出して完結した。当時、国立民族学博物館教授石毛直道氏によって「日本人の食生活に関する最大の一次資料

であり、食の地域性の比較研究の材料としても質が高」と評価された。このような高い評価を得た源は何よりもまず、この全集の企画・編集方針そのものに探ることができる。

①最大のねらいは各地域の庶民の伝統的食生活の全貌を歴史的資料として残すこと。

②そのために有名料理やいわゆる日本料理に限定せず、地域の食べもの、食生活の総体を、人びとの暮らしや地域の自然・産業などと関連づけて、聞き書きによって再現する。



講座 食の文化

全7巻 監修・石毛直道、菊判・上製、平均430頁

●各6800円、揃価47600円

「食の文化」の本質は、活の成立・特徴を、外来文化の受容・選択・変容・融合のプロセスで捉える。第3巻「調理と食べもの」杉田浩一編著 生活文化の創造にかかわる調理の文化的意味を解明し、その伝承と変容のダイナミズムに迫る。

第4巻「家庭の食事空間」山口昌伴編著 食べる営みと社会構造とのかわり、台所仕事とその道具に込められた価値観を探究する。

第5巻「食の情報化」井上忠司編著 食生活の大きな変化を食の社会化・情報

第2巻「日本の食文化」熊倉功夫編著 日本型食生



聞き取り調査のようす



る穀物、いも・豆類など3季節素材の利用法…野菜、山菜、魚貝類など季節性の強い素材の食べ方、保存法

4 伝承される味覚：発酵食品や調味料の食品。地域で培われてきた味覚のベース5〇〇地域の食、自然、農業：以上を支えた地域の自然、風土、農林漁業の連関

聞き書 ふるさと家庭料理

全20巻・別巻1

●各25000円、別巻30000円、揃価530000円

料理別・テーマ別に全国の伝統料理を全巻カラーページ・聞き書きで再現。解説・奥村彰生

【料理別編】①すし ②混ぜごはん ③雑炊 ④おこわ ⑤ちまき ⑥だんご ⑦まんじゅう ⑧おやき ⑨お料理

全集 世界の食文化

全20巻・既刊11巻 監修・石毛直道、A5判・上製、平均280頁

●各32000円、揃価640000円

2 中国 近年めまぐるしい変化を見せる各地の食材と調理を写真する。

3 モンゴル 夏は白（乳製品）、冬は赤（ヒツジ肉）の遊牧民の食卓。

4 ベトナム他 米と魚醤の地、東南アジアの食を現地踏査する。

5 タイ 庶民の1日の食事を追って見えてくるもの。7 オーストラリア他 多民

時的に、共通の表現方法によつて表わした本全集は、索引巻2冊によつてさらに充実した。この「日本の食生活全集」二冊は一万五千種にのぼる料理、保存食などを素材別、つくり方・食べ方別、人生の節目、薬効、野菜の地方品種など六つの角度から博覧強記な仕組みになっている。

「日本の食生活全集」全50巻は、地域を愛し、日本の自然と食事を誇りに思い、伝統を現代に生かし発展させようと願うすべての人びとの、末永い心の糧になるであろう。



農文協

日本の食文化に関する 質量とも最大のデータベース

CD-ROM版



日本食生活全集 Windows版 ●120000円
全集50巻分の全データを収録。カラー写真120000枚。全国すし比べ、雑煮比べ、各都道府県ごとの食生活研究など、多彩な検索機能で思いどおりに実現。画期的な食文化データベース。

各界からの反響

住井 幸夫 「日本の食生活全集」は文化の黄金（きん）脈を掘りあてた。と私は言いたい。人々はそこにはじめて日本の歴史の真の姿を見よう。沢村 貞子 二十二年あまりのこの研究のあとを私は大切にたどっていきこう。健康やかに生き、暮しを楽しむために。井上 ひさし 日本文化、日本人のいのちがかたちを変えた大百科という感じがする。中島 梓 「日本の食生活全集」はなかなか衝撃的なドラマをはらんでいる。石毛直道 明治以前から連続と続いていた日本人の食生活に関する質量とも最大の記録集。色川 大吉 多くの学問分野で、他に類のない価値ある仕事となろう。



全50巻・都道府県別編集 A5判・上製、平均350頁、カラー口絵付 ●各29000円、揃価1450000円
食で深まる家族の絆。日本人のいのちの記録
その地の自然と暮らしの積み重ねに育まれた食のありよう。今、失われつつあるその本来の姿を、各地の古老からの地道な「聞き書」と再現写真で記録した壮大な食の民俗誌。

●日本の庶民の食の原形を記録：昭和初期頃の、戦争による混乱、戦後の洋風化を経る以前の食生活の記録
●各都道府県別編集：「聞き書 岩手の食事」「聞き書 京都の食事」といったタイトルで1冊にまとめ、「アイヌの食事」、索引2巻を加え全50巻とした。
●取材対象者が高齢のため、最初にして最後の企画：全国五千人から聞き取りした世界にも例のない記録
●四季折々、朝昼晩の献立、晴れ食、行事食、薬効のある食べ物、救済食まで細かに記録。

本全集の初回配本

聞き書 岩手の食事

作家・富岡多恵子氏が、「ものを食べて」生きる事実と文学的感動をおぼえる、と激賞。

食と健康を地理からみると

島田彰夫著

B 6判、248頁●15000円

近代栄養学は減塩のために味噌汁を敵視し、カルシウムのために牛乳を薦めるなどの要素主義を繰り返してきた。だが食事は栄養素の寄せ集めではない。風土と歴史が積み重ねてきた

外国人が驚いた江戸・明治の日本人の壮健さ、病気の状態ばかり教えて健康を学ぶ機会のない医学教育など、栄養と健康の常識の陥穽を実証的に明らかにし、地域性に立脚した「身土不二の科学」を明らかにした名著。



食とからだのエコロジー

島田彰夫著

B 6判、232頁●17400円

動物としてのヒトの食性の食事のまかなう「食術」と、民族の歴史と風土の調和としての食文化。そのエコロジカルな調和を持続させるのは一人ひとりの毎日



食文化の形成と農業

戸田博愛著

A 5判、428頁●42000円

風土の強い影響を受けたそれぞれの国の農業。それと一体的に長い歴史の中で形成・伝承されてきた文化。日・欧・中・韓それぞれの国の食の土台を見つめ直



す。南北農業の違いの上に国・地域別の歴史的文化的差異が散りばめられた欧州。「十年九旱」と言われる厳しい自然条件と戦乱の歴史の中で食欲で重層的な文化を形成した中国など、世界固有の食の歴史を農の視点から見つめ、未来へ向けて「主張のある食事」を提言する。

食生活の表層と底流

「全集 世界の食料 世界の農村」第22巻
吉田 忠他著

A 5判、244頁●32000円

食は素材の生産・流通・加工・調理・摂取の一連の過程であり、その国の自然・経済・文化の反映として存在する。文化は食を持続させ、経済は食を変貌させる。都市化と経済成長の中で宮廷料理が普及し庶民の食を変えていくタイ。そして日本は？ 東アジアの経験を解析して食の未来を展望する。



「食生活指針」の比較検討

豊川裕之著

B 6判、196頁●13650円

現代の食生活は「画一的でばらばら」。そこから生じる諸問題への対策として各国で出されたのが食生活指針。スウェーデン、ドイツ、米など六つの外国と農水・厚生両省、長野県の指針を読む。80年代から提唱



されるようになった「日本型食生活」を本場に豊かで健康な食生活の指針とするには、村や町など地域小集団における自助努力が欠かせないという主張は、地産地消時代にこそ重い意味を持つ。

肉食文化と魚食文化

長崎福三著

B 6判、210頁●17400円

水稲と魚をベースに土着型食文化を築いたアジア、不足する家畜のエサを新大陸に求めたヨーロッパの肉食文化。南の国々が後者の食を指向していけば、世界



住みつけられるために、新たな食のデザインを提唱する。長く日本鯨類研究所で捕鯨擁護の論陣を張ってきた著者の渾身の一冊。

日本の焼肉 韓国の刺身

朝倉敏夫著

B 6判、200頁●19500円

韓国の日本料理店で鰻の蒲焼を頼むと店員がハサミで切ってチンヤの葉に包んでくれる。逆に韓国の人は



身近な食の話題で文化の受容と変容を読み解く文化人類学の手法が効果的で、一氣に読み通せる。すると、違いを踏まえた上での相互理解の道が見えてくる。それは自らの文化をより深く理解する道でもある。

牛肉と日本人

吉田 忠著

B 6判、224頁●16500円

副題は「和牛礼賛」。日ごと。牛肉も「かしわ」も本にも独自の肉食文化があることを示す。彦根牛(のこおしい)ブロイラーが過小評価されていること



牛肉と日本人を語りながら、歴史と風土が生んだ食文化への愛着・信頼を新たに、多様化する現代人の食生活の中で和牛の生き残りの方向を探る。

東西の食文化

大石貞男著

B 6判、224頁●16800円

静岡県を流れる大井川。ここを境に食文化の明瞭な違いがある。「おにぎり」か「おむすび」か。にぎり寿司からし寿司か。鰻は



著者は長く静岡特産のお茶の振興に努めた研究者。「日本のまんなか」の小さな村の食の情景から、複雑で豊かな日本の食文化の全体像を描いた秀作。

復刻 昭和二十年八月食生活指針

静岡県著、豊川裕之他解題

B 6判、240頁●16000円

敗戦の年、静岡県が配布した食料難時代のサバイバル集。どんぐり、とち、かや、からすうりから五七種な仕掛から大掛かりなものまで四通りの方法を紹介している。本書をいま見ると、自然をすみずみまで生かす知恵の宝庫である。地元では子どもたちの環境教育・自然体験活動のテキストになっている。



ニッポン劣等食文化

山路 健著

B 6判、244頁●14000円

雑誌「食の科学」の名物編集長が飽食日本の食文化をなで切りにした。つくる食文化から遊離して、食べ



るだけになった食文化の虚像性を暴く。だが、本書は一体となっていた時代の食文化への愛着がのぞく。食文化の「失われた十年」のあとに取り戻すべきものが示唆されている。

ユートピアと食生活

田村真八郎著

四六判、278頁●16800円

プラトン『理想国』から井上ひさし『吉里吉里人』まで、古今東西のユートピア文学を食と農業の視点から見た異色の書。組上には他にトーマス・モア、フラ



「小国寡民」への親近感、進歩を渴望するグローバリズムから地域ごとの個性に足るを知る時代への転換の予兆である。

生活文化の豊かさ、奥深さ

聞き書

ふるさとの家庭料理

日本人の食卓と暮らしの原風景



昭和の初めの料理をカラー写真で再現。その地ならではの一品一品を、暮らしの「物語」とともに全国五千人の古老から細やかに聞き書き。
●A 5判・上製、各2500円、揃価53000円
解説・奥村彪生 各巻ごとに各料理を全国的・歴史的視点から解説。料理が生まれた背景や、地域特有の食文化への理解を深める。

【料理別編】

- ①すし なれずし
- ②混ぜごはん かてめし
- ③雑炊 おこわ 変わりごはん
- ④そば うどん
- ⑤もち 雑煮
- ⑥だんご ちまき
- ⑦まんじゅう おやき おはぎ
- ⑧漬けもの
- ⑨あえもの
- ⑩鍋もの 汁もの

【テーマ別編】

- ⑪春のおかず
- ⑫夏のおかず
- ⑬秋のおかず
- ⑭冬のおかず
- ⑮乾物のおかず
- ⑯味噌 豆腐 納豆
- ⑰魚の漬込み
- ⑱干もの 佃煮 塩辛
- ⑲日本の朝ごはん
- ⑳日本のお弁当
- ㉑日本の正月料理

別巻 祭り行事のごちそう 3000円

講座 食の文化



【全7巻】監修・石毛直道 発行・味の素食文化センター「日常茶飯事」の文化をあらゆる角度から解剖。人間の食の豊かさ、多様性を様々な分野からの学際的研究で明らかにする「食の文化フォーラム」16年の成果を集成。
菊判・上製●各6800円、揃価47600円

農文協

- ①人類の食文化
- ②日本の食文化
- ③調理とたべもの
- ④家庭の食空間
- ⑤食の情報化
- ⑥食の思想と行動
- ⑦食のゆくえ

吉田集而編
熊倉功夫編
杉田浩一編
山口昌伴編
井上忠司編
豊川裕之編
田村真八郎・井上如編

医

農文協の全集

身体と精神の関わりの総体を扱う生命科学

医学（医療）は対症療法に専念し、健康学は栄養学に矮小化され続けた。しかしようやく、明治期に現われて消えた「病は食から」の食養思想や「食育」という考え方が復活しつつある。医療と健康は二つの顔をもつ一つの分野、つまり人間の

身体と精神の関係性を扱う分野（生命科学）だと考えるのが農文協の立場である。結果として、衛生、保健、薬剤、医療活動にかかわる全集・専門書が多くなっている。

叢書

日本漢方の古典

全3巻 栗島行春編訳 B5判・上製・箱入

●揃価52500円

日本漢方は、中国の伝統医学（中医学）とは別個の実証的医学として江戸中期に独自化した。これは『傷寒論』の科学的・実証的精神への回帰をめざし、東西医学の結合を指向する。『叢書 日本漢方の古典』は、この日本漢方の起源・展開・深化の過程を示す画期的著作を選び、原文・翻刻・現代語訳・注解・解説・索引を付したものである。第一巻『傷寒論』は、わが国最古の医書『醫心方』の掉尾、食こそ生命の原点とする「食養篇」。第二巻『建殊録』―東洞医学の成果―は、『傷寒論』研究に没頭した吉益東洞の業績を集めた。第三巻『聖永富獨嘯庵』は、山脇東洋門下の俊英・永富獨嘯庵の生きざまと医学の全体像を再現し、日本漢方の一つの極致を示す。（第1巻 490頁、16800円、第2巻 486頁、16800円、第3巻 582頁、18900円）



安藤昌益全集

増補篇

全3巻 A5判・上製・箱入

各巻CD-ROM付●揃価45000円

『安藤昌益全集』増補篇は、自然と人間の有機的な結合と「治末病」をめざす「天人一和」の昌益医学に焦点をあてる。増補篇一は、新発見の『良中子神医天眞』『良中先生自然真営道方』（ともに内藤記念くすり博物館蔵）の書き下し・注。増補篇二、三は焼失した昌益全集へ全文書き下し（章句検索篇）のCD-ROMを付す。膨大な昌益の思想体系を自在・瞬時に検索し、読むことができる。（増補篇一 東均・新谷正道編著、増補篇二 中村篤彦編著、増補篇三 中村篤彦編著【別冊附録】昌益医学ハンドブック、各巻15000円）



丸山博著作集

全3巻 A5判・上製

●各3500円、揃価10500円

「いのちは食なり」。これが森永砒素ミルク中毒事件の追跡調査などで社会の矛盾と生命の危機を厳しく追及した丸山博の到達点だった。「衛生とは生命・生活生産を衛することである」とする丸山衛生学の精髓を①公衆衛生学の研究②保健師・養護教諭らの運動論③いのちの問題としての食の考察（インド伝承医学研究を含む）…の三巻に編成。地域福祉や食の安全・安心の問題が深刻さを増している今日、色褪せることなく示唆に富む。



戦後日本病人史

川上武著

A5判、844頁●12000円

医学史でも疾病史でもない「病人史」という視点。高度先端医療の進展まで、この方法で初めて、人間の生命を脅かす病気と社会と医療の関係が明確になる。治療現場に立つ医師であり、社会視点を持つ医事評論家でもある川上だからこその仕事。被爆者、ハセセン病、公害病から遺伝

正木健雄選集 希望の体育学

正木健雄著 正木健雄選集編集委員会編

A5判、510頁●7200円

21世紀をこそ子どもの世紀に―正木は、軍国主義教育の先兵だった体育を子どもたちのための体育に転換するために研究し、発言し、運動を組織してきた。NHKで取り上げられた話題となった「背中ぐにや、朝からあくび」など子どもの問題と、後に続く世代に託された課題がよくわかる。

サービスとしての医療

中川米造著

B6判、210頁●1631円

医療倫理学、医療人類学、の重鎮として活躍した中川は、丸山博のアーユルヴェーダ研究会の副会長でもあった。限りなく商品化する医療に警鐘を鳴らしなが

医学の不安

沼田勇著

B6判、246頁●1200円

医学が進歩すればするほど、人間は滅亡へ向かう―。医博で北里研究所員だった著者はいま、日本総合医学会の永世名誉会長として食の道を読み、齢九十を越

短命化が始まった

農文協文化部署

B6判、242頁●1280円

短命化が進むかつての長寿村（山梨県桐原）。むらたはなげ長寿食を自らすすんで捨てたのか。現地調査報告が明かす―山村の食生活は、いま新鮮に響く。

イブの出産、アダム誕生

きくちさかえ著

B6判、250頁●2100円

水中出産、イルカとお産、ネーターの草分けである著者シャーマンとお産：医療化された出産の殻を破る内外のキーパーソン18人と、日

★医療者による医学への自省

構造薬書 片平冽彦著

背徳の生命操作 市川茂孝著

ヒトの死が変わる 吉村不二夫著

★医の思想の全体性を取り戻す試み

飛騨の夜明け 海野金一郎著

老いと健康の生命科学 藤井平司著

二度わらべの母と生きる 中島誠著

病のかげに横たわるもの 小崎順子著

1950円
1365円
2039円
1050円
1937円
1380円
1365円

「未病の学」の先駆 全人医療の先駆 農文協

安藤昌益全集

増補篇 全3巻

日本漢方史上独自の医学思想の発見



良中子神医天眞 良中先生自然真営道方

増補篇 第2巻（資料篇五上） 真斎謾筆 天・地・人（上）

増補篇 第3巻（資料篇五下） 真斎謾筆 天・地・人（下）

増補篇 第3巻（資料篇五下） 真斎謾筆 天・地・人（下）

日本漢方の古典



医心方 食養編

建殊録 東洞医学の成果

医聖 永富独練庵

山脇東洋門下、西漢折衷医学の俊英の主要著作。古方医学の理論確立と実践的検証。

週刊タイムズ

学問の威力

KODAK

規に購読する読者が増えている。「かねてより、何故かみずす書房に関する号のみが自宅に送付されてきていました。出版には強い興味・関心を抱いており、みずすに限らず、岩波、東大

「出版ダイジェスト」
今後の発行予定

「新文化」 4月28日

本と出会う一批評と紹介

月30日、同僚年9月10日の季あけ、
行方不明。戦時中に、本代官は出版販
行も紙出。故に諸職能やいろいろ職能が
あつて、だいたひ、本官は一部
スラ上が2
000を
追へた。
「紙へ手が先本本
作れぬのを嘆いて、
りまの諸職能は諸職能出版
が推して、四半
の世紀、ア・ジェン」の
坂本に、この「出版文
の坂本に、この「出版文
2000年、井持善太郎の諸職能
へ出版、いさよ、出た本
を、紙に出さうが、この半
な仕事で、新刊出版の中心
で、ア・ジェンの諸職能が
あつて、この「出版文
2000年、井持善太郎の諸職能
へ出版、いさよ、出た本
を、紙に出さうが、この半
な仕事で、新刊出版の中心
で、ア・ジェンの諸職能が
あつて、この「出版文

▲「毎日新聞」 5月1日

「出版」を「ダイジェスト」に迎えた2000年



販売

[illegible]

「専門書のPRをする媒体」としてスタート、もともと途中で

体刊になっていけば、専門書の世界も淋しいものになっていくだろう。今後の課題としては「流通」とのリンクであり、ＩＴ化による情報の整備、出版社会メーバーとの連携、農業書センターならぬ出版学生会社設立まで夢を膨らませていく。

「会としては、今後は流通委員会とタイジエスト委員会を連携も考えていきたい。真の増売のためにも」。究極は「専門書センター」システムの構築である。

一月二二日号	白水社
一月二二日号	総合版
二月一〇日号	近代文芸社
二月一一日号	農文協
二月二二日号	総合版
(以下 略)	
毎月の二二日号の総合版	
で出版研究会社員社100強	
の専門書情報のほか、晶	
文社・ミネルヴァ書房・農	
文協の三社連合、フランス	
文学・語学・人文書の白水	
社、みすず書房、書や故宮	
関連の出版で有名な二玄社	
などの特集号も届く。	

●専門書のロングセラー紹介 専門書出版社約100社でつくる「出版界協会」が発行するタブロイド判新聞「出版ダイジェスト」が4月21日号で2000号を記録した。新刊の情報を伝える手段として1949年に発刊。休刊寸前の危機をたびたび乗り越えての記念すべき2000号の特集のタイトルは「専門書の底力」で、会員各社のロングセラー本が紹介されている。毎月3回発行。購読料は年1575円。

▲「朝日新聞」 5月8日

出版祥会の「出版ダイジェスト」が創刊二〇〇〇号を発行して三回発行（一・二・三）

1100頁(全二十冊)で、巻頭には「出版ダイジェスト」の歴史をたどる「出版ダイジェストの歩み」とある。二・三は「出版ダイジェスト」の歴史をたどる「出版ダイジェストの歩み」とある。二・三は「出版ダイジェスト」の歴史をたどる「出版ダイジェストの歩み」とある。

[illegible]

This is a black and white reproduction of a Japanese newspaper page, likely from the mid-1940s. The page is densely packed with Japanese text in multiple columns. At the top, there are prominent headlines in large, bold characters. A large, dark, rectangular graphic or photograph is visible in the upper left section. The overall layout is typical of a wartime Japanese newspaper, with a focus on news and propaganda.

▶「週刊読書人」 5月13日

● 全21卷・22分冊・別巻1
● 每日出版文化賞受賞、物集索引賞受賞

日本思想史に伏流する

エコロジー思想を体現

元禄16（1703）年現在の秋田県大館市生まれ。医者として人体の歪みを見つめる視線は社会、環境の歪みへと向かい、当時の封建体制のみならず孔子、孟子、孫子ら先哲の教え、仏教思想まで戦闘的に批判。その思想は、自然と人間の調和を基本とした、万人平等のコミュニケーションを構想し、現代に示唆する。

影印版

[illegible]

書下し文（上段）と
現代語訳（下段）

安藤昌益研究会編 現存する著作を網羅。復刻（原典の影印版）、書下し、現代語訳、注解付、A5判上製、貼箱入り

農文協 日本エコロジズムの始祖

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| | ◆現代語訳編 |
| ① | ⑦稿本自然真當道 |
| ② | 大序卷・他 |
| ③ | 私注字書卷 |
| ④ | 私法儒書卷 |
| ⑤ | 私法仏書卷 |
| ⑥ | 私法韻鏡卷・他 |
| ⑦ | 私法世物語卷・他 |
| ⑧ | 人相視表知裏卷 |
| ⑨ | ⑫統道真 |
| ⑩ | 八絳失 |
| ⑪ | 九仏失 |
| ⑫ | 人倫卷 |
| ⑬ | 禽獸卷 |
| ⑭ | 万国巻 |
| ⑮ | 刊本自然真當道 |
| ◆資料編 | |
| ⑭ | 井田利時『慶閑係料一』 |
| ⑮ | 『慶閑資料』一齊説筆 |
| ⑯ | 上八戸間係資料一 |
| ⑰ | 下八戸間係資料二・他 |
| ◆複製編(影印版) | |
| ⑱ | 『橋本貞良真當道』大序卷・他 |
| ⑲ | 『橋本貞良真當道』私備卷・他 |
| ⑳ | 『峯松雲谷』自提知要卷・他 |
| ㉑ | 『経緯存本』自然真當道 |
| ◆別巻 | |
| ▲安藤昌益事典 | 著作目録、年譜、関係文獻目録、用語・人名地名・病名索引 |
| ▲関保文庫目録 | 図解・図表 |
| ▲用語・人名地名・病名索引 | |
| 4200円 | |



ご注文は 農文協 〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 ☎03(3585)1141 FAX.03(3589)1387 URL=<http://www.ruralnet.or.jp/>

価格は税込

好評
刊行中

全集は時代の羅針盤

全集 世界の食文化

全20巻・既刊11巻

伝統と国際化のせめぎ合いのなかで
描き出す食の歴史と今

食から世界各国・地域の暮らしの全体像に迫るシリーズ。現地体験をもつ研究者による各巻書下ろし。《監修》石毛直道《編集委員》大塚滋、樺山紘一、川北稔、熊倉功夫、本間千枝子、南直人

A5判・上製、平均280頁・各3200円、揃価64000円

【最新刊】

③ モンゴル

小長谷有紀著 遊牧生活を支える「白い食べもの」乳製品と「赤い食べもの」肉。伝統食のレシビから、世界の食が流れ込む異空間・首都ウランバートルの最新食事情まで。
●3200円

図説 中国文化百華

全20巻・既刊9巻

日中文化交流の軌跡が未来を拓く

現代文明の行き詰まりを乗り越え、自然と人間が調和する21世紀を切り拓く鍵は、アジアの生活文化と思想のなかにある。日中文化往来の軌跡を軸に、その諸相を写真・図版豊富に描く。
●A5判・上製、各3200円、揃価64000円最新刊
火の料理 水の料理
食に見る日本と中国木村春子著 だしとスープの違い、ナマを活かすか火を駆使するか、おいしさの表現は…水の国日本と、火の国中国を比較しながら食文化の奥深さを描く。
●3200円

【続刊予定】『書が時代を立ち上げる』石川九楊、『中国の喫茶文化から日本の茶の湯へ』熊倉功夫、『木々ざわめく中国—文明と生態系の角逐—上田信ほか

② 中国

周達生著 都市の先端ヌーベル中華の変遷から少数民族の食事情まで、多民族国家の食の全貌を新しい視点で追跡。

④ ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー 森枝卓士著 フォーで始まる朝のベトナム、干物と塩辛のカンボジア、米と魚醤の地の食探訪。

⑤ タイ

山田均著 バンコクの老若男女から食の現在を聞き取り。レシピや、食材・料理小事典付。

⑦ オーストラリア・ニュージーランド 小山修三責任編集 進むアジア化、健康志向、多様な移民と豊かな食材が創造する新大陸の食文化。

⑨ トルコ 鈴木董著 中央アジアと地中海世界が出会う地の世界三大料理のひとつ。比較文化の視点から描く。

⑪ アフリカ 小川了著 セネガルの都市民から森に住むビッグミミまでを精査して大陸共通の食の三原則を発見。

⑫ アメリカ 本間千枝子・有賀夏紀著 ファストフードの帝国で始まる持続的な食の見直し。食から読み解く「人種の坩堝」。

⑮ イタリア 池上俊一著 外来の食材を受け入れ、融合させ、絡ませて独自のものを生み出すバスターの世界。

⑮ ドイツ 南直人著 「ジャガイモとソーセージ」は皮相な常識。豊かな地方料理と最近の日本食ブームまで。

⑳ 極北 岸上伸啓編 酷寒の風土と一体の究極の食。文明の侵蝕から伝統の再創造へと向かう北方6民族の食模様。

天翔るシンボルたち

幻想動物の文化誌 張 懸著 多種多様な「角獣」、聖鳥、龍…異形異能の幻想動物に託した古代人の文化的メッセージを読み解く。

おん目の雫 ぬぐはばや 鑑真和上 新伝 王 勇著 命がけの渡日に駆り立てたものとは？ その知られざる情熱と当時の中国仏教界の実相を描き出す。

イネが語る日本と中国 交流の大河5000年 佐藤洋一郎著 最新のDNA鑑定と現地調査による斬新なイネ起源・伝播論が描き出す、複雑な交流の軌跡と未来。

しじまに生きる野生動物たち 東アジアの自然の中で 今泉忠明著 写真多数で紹介する中国の動物と人との博物誌。凍土から熱帯まで60種の動物達の生態と運命。

神と人との交響楽 中国 仮面の世界 稲畑耕一郎著 出土する仮面、巫師の仮面、仮面劇など民衆の文化に深く分け入り、知られざる中国文化の古層に迫る。

真髓は調和にあり 呉清源 著の宇宙 水口勝雄著 若は勝負ではなく調和の希求だと説く棋神の魂その思想と生涯を、自選の新布石を棋譜を交えて詳説。

歴史の海を走る 中国造船技術の航跡 山形欣哉著 遣唐使船から朱印船、琉球船、台湾船までヨーロッパとは独自に発達した高度な造船技術をまとめた。

「元の染付」海を渡る 三杉隆敏著 世界を魅了しマイセンやウエジ・ウッドを生んだアジアの陶磁器。「海のシルクロード」からたどる国際文化交流。

百の知恵双書

第1期全20巻・既刊9巻

足もとから暮らしと環境を科学する

かつての百姓が「百の知恵」を必要としたように、創造されなければならない21世紀を生かすための知恵。ポジティブに好奇心をもって暮らしと勇気を紡ぎ出す双書。B5変型判、上製、平均168頁・各2800円、揃価56000円

まちに森をつくって住む

甲斐徹郎・チームネット著 地域の緑が空調装置—個人の住まいも街も「トク」をする環境共生住宅のビジョンと実践を教授するエコロジー住宅 市民学校。
●2800円

参加するまちづくり 伊藤雅春・大久手計画工房著 まちのビジョンを住民が共有し、地域のことは地域で決める自由で開かれた「ワークショップ」実践。 樹から生まれる家具 奥村昭雄著 木の良さと美しさを人と触れ合う「かたち」に生かす、無垢材の生地仕上げ。建築家の家具作り40年の研鑽。

昆虫

大きくなれない擬態者たち



大谷剛著 「大きくなれない」進化の道を選び大繁栄した昆虫の、食われなための奇策の数々。

時が刻むかたち

奥村昭雄著 貝殻の形、蔓の動き、葉の仕掛け。風土に合った屋根の形：動植物から景観まで美しく複雑な人と自然の博物誌。

棚田の謎

田村善次郎・TEM研究所著 自然と折り合う日本の原風景—棚田の知恵を、工学と民俗学が融合した緻密なフィールドワークで再現。

目からウロコの日常物観察 野外活動研究会著 店の看板、粗大ゴミ、おばさんファッション…奇妙なモノに刻印された暮らしの諸相を解説。

住宅は骨と皮とマシンからできている 野沢正光著 住み心地や環境、資源にも配慮し、地域自然や町の記憶をつなぐ家とは…建築家が設計実例から語る住宅入門。

写真
ものがたり 昭和の暮らし

全5巻・既刊4巻

貧しいから夢と誇りがあつた

須藤功著 生業への誇り、隣近所の助け合い、豊かな自然…高度経済成長が吹き飛ばした日本の原風景。地方写真家が残した貴重な記録。

AB判、上製、各240頁・各5250円、揃価26250円

④ 都市と町

焦土からの復興、高度経済成長による家電、車の普及、長屋から団地へ…昭和20～40年代、大変貌した日本人の暮らし。



五畳半一間の木質アパートの5人家族（昭和40年、撮影・渡部雄吉）



① 農村

四季の農作業、囲炉裏での団欒、骨休めの湯治や祭り、子どもの遊び。

② 山村

木を伐り、炭を焼き、木地物を作る。焼畑に汗を流し獣を撃つ暮らし。

③ 漁村と島

豊漁に沸く浜、海に寄り添う技と知恵、浜で漁を支える女たち。

【最終回配本】7月上旬刊

⑤ 川と湖沼

農文協

●食と農の4大データベース搭載！ <ルールル電子図書館>会員募集中！：http://lib.ruralnet.or.jp
〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1
TEL.03-3585-1141
FAX.03-3589-1387
http://www.ruralnet.or.jp

■ 地方事務所

北海道（札幌）011（271）1471
甲信越北陸（長野）026（235）3427
中四国（岡山）086（231）2693東北（仙台）022（262）5804
東海近畿（名古屋）052（571）3408
九州沖縄（福岡）092（282）8550

関東（小山）0285（27）3047

（2005年6月現在 価格は税込）